

第3回京都市洛西地域公共交通会議 摘録

日 時：令和5年9月11日（月）午後1時～午後3時
場 所：ホテル京都エミナース 金閣の間
出席者：別紙出席者名簿のとおり

1 開会

○ 事務局（会議の諸注意及び配布資料の確認）

○ 委員紹介

— 事務局から京都市洛西地域公共交通会議委員の紹介 —

2 議題

(1) 学識経験者（井上委員）による講演

「地域公共交通計画の策定と地域公共交通会議の役割」

- ・ 地域公共交通計画は、私たちの地域における持続可能な公共交通に対して、どのような考え方で提供するかという「宣言文」（「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにするマスタープラン）。コンセプトを明確にして個別の対応を検討していく指針。
- ・ 地域公共交通会議は、「住民・事業者・行政が知恵を出し合って持続可能な公共交通の在り方を考える場」であり、要望の場ではない。自分ごととして「何ができるか」を議論することが重要。
- ・ 移動は日常生活で欠かせないものであり、地域の移動に関する最適化を考えることが大切。
- ・ 公共交通は「みんなの希望のなかで折り合いがつく」、「より多くの目的地がまとまること」で成立するもの。利用者が減少すると、減便、廃止につながっていく。担い手不足や、行政の支援も予算の限界があり、維持・確保は容易ではない。
- ・ 持続可能な公共交通の実現のためには、「過度にクルマに依存しない」ライフスタイルを考える必要がある。
- ・ 将来、クルマに乗れなくなったときに公共交通を利用したいとよく言うが、クルマに乗れない体力であれば、公共交通の利用も難しい。公共交通の利用は健康寿命の延伸につながる（フレイル予防になる）。
- ・ 地域公共交通会議で公共交通の理解を深めるとともに、お出掛け体験会などを通じて、公共交通の利用方法を地域に広めてほしい。
- ・ 「乗ってみたら意外と便利」と世代を問わず聞かれる感想である。

○ 宇野会長（京都大学）

車（マイカー）を全く使わないというわけではなく、上手な使い方を考えていくことが大切。車があれば便利だが、車だけではある意味選択肢に乏しいと思う。車、バス、鉄道、タクシーなど、交通手段を選ぶことができる環境を目

指したいが、高齢になったときに公共交通を利用するという考え方では実現しない。今から積極的に利用いただく必要がある。

(2) 京都運輸支局からの情報提供「自動車運送事業の2024年問題」

○ 木原委員（京都運輸支局）

（資料2に基づき、説明）

○ 宇野会長（京都大学）

旅客自動車運送事業と貨物自動車運送事業の従業員の年齢構成を見ると、貨物の方が若年層が多いが、一種免許取得後に二種免許を取得するからか、それとも、待遇面で物流の方が人気だからか。

○ 木原委員（京都運輸支局）

二種免許の取得にちゅうちょされている傾向はあるかもしれない。貨物自動車運送事業は、担い手の運動量も多いからか若年層が入りやすい。キャリアアップして、旅客自動車運送事業の担い手になることも考えられる。

○ 小石委員（西京区自治連合会）

以前、一種免許取得者でも条件を満たせば、バスを運転できるようにしたらどうかといったニュースを見た。最近では、自動車運転免許すら取らないような若者も増えている。こういった時代の変化の影響もあるかと思う。

○ 木原委員（京都運輸支局）

確かに自動車免許の取得者は減っているが、一定数いる自動車免許取得者に旅客自動車運送事業に目を向けてほしい。そのために、国も事業者と協力しながら、常に門戸が開いていること、免許を取得できればできる可能性がある、そして、やりがいのある仕事だということをしっかりと周知してまいりたい。

○ 小石委員（西京区自治連合会）

相対的に西京区は生活するためのまちであり、通勤時間帯の朝晩しか人の動きがなく、しかも片方向のみの利用である。だからこそ、昼間のバスの便数は少なく、少ないから利用しない、利用しないから少なくなるといった悪循環だった。やはり、人の流れを作るには、地域だけではなく、行政の協力も必要だと思う。まちづくり全体を見直す必要がある。

○ 井上委員（龍谷大学）

公共交通は、病院や買物など目的地があるから利用する。まちづくりの一環で、洛西地域に新しく外出する動機ができれば、大きなチャンスとなる。京都市全体では、買物や通勤・通学するところはあっても住むところがないという課題があるが、洛西は住むところはたくさんあり、ポテンシャルが高い地域。まちが変わる前に、移動手段等をもう少し変えていこうとなれば、市内で最先

端の地域になると思う。

(3) 京都市地域公共交通計画の策定に向けた状況（報告）

(4) 洛西“SAIKO”プロジェクト（報告）

○ 事務局

（資料3、4に基づき、説明）

○ 片岡委員（西京区自治連合会、新林学区自治連合会）

今日、ここに来る前に、大阪でバス会社が廃業するというニュースを耳にした。地域としては、バスの便数を増やすといった要望ばかりでなく、交通ネットワークを維持・確保するために、公共交通を利用するという考え方に賛成する。これからも地域の方に利用することの大切さを広めていきたい。そんな中でも、高齢者など、買物に行くのが不便という方がいるのも事実。引き続き、利便性の向上も考えていただきたい。

○ 藤本委員（福西自治連合会）

ニュータウンへ若年層を呼び込むためには、通勤・通学に便利な路線など鉄道駅への速達性がポイントとなる。一方、高齢者にとっては、日常生活の足の確保が課題であり、地域内の循環バスのニーズが高い。ニュータウンができた頃、住民の多くは30～40代だったため、地域内循環バスの必要性は低かったが、現在は、高齢者が多くニーズが高いと思う。バス路線を検討する際は、地域の人口構成も考えていただきたい。

○ 安田様（西京区地域女性連合会）

私は桂地域に住んでいるが、洛西地域は、地域住民の拠点の場所が充実していると感じる。

バス停については、待ち時間が長い場合、屋根があるとよい。洛西地域のバス停は屋根やベンチがある場所が多い。これからも高齢者が座ってバスを待てるような環境を整備いただきたい。

○ 小石委員（西京区自治連合会）

バスを走らせるだけではなく、どうすれば利用しやすいかを考える必要がある。バス停も、以前と比べると環境が整備されたが、今でも座る場所がない、日陰にならないところもあり、引き続き改善の必要がある。

若年層に対しては、携帯電話で便利な乗継ぎ案内を発信することで、使ってみれば意外と便利であることを知ってもらうことが大切。

鉄道駅まで歩くことがしんどい場合、遠回りで少し時間が掛かっても、バスと鉄道とを乗り継いで利用する方がスムーズに移動できることもある。これからは、利用の仕方について考えることも必要になる。

○ 片岡委員（西京区自治連合会、新林学区自治連合会）

私は、市バス特西4号系統ができてからは、バスを利用して京都駅や河原町に外出している。非常に便利。需要に応じて路線を見直していただきたい。

○ 宇野会長（京都大学）

使い方・見方を変えることで実は便利であることに気付くといった話だったが、このような情報を共有していくことも重要かと思う。

○ 事務局

交通弱者の方への対策といった話があったが、計画素案には、ラストワンマイルの検討のほか、地域の輸送資源を総動員することを掲げている。事業者や行政だけではなく、地域の方を含めて、持続可能な交通体系の構築に向けてみんなで考えていきたい。

地域内循環バスの必要性については、洛西“SAIKO”プロジェクトとしてまちの活性化に向けた取組が進んでいく中で、バス路線についても、事業者と共に考えていくこととしている。地域住民の皆様の御意見も踏まえて検討してまいりたい。

バス待ち環境についても、この間、各事業者において改善されてきた。まだ不十分な場所があるかと思うが、引き続き、機会を捉えて検討していきたい。

○ 児玉委員（京都市交通局）

洛西地域は、4社局のバス事業者が運行するという特徴がある。これまでからも各事業者が知恵を持ち寄り、例えば、便利なダイヤ編成の検討や共通時刻表の設置など、利便性向上に向けた取組を進めている。

一方で、地域全体でより便利にしていくためには、例えば、乗車券によって利用できる事業者とそうでない事業者があるといった不便を解消するなど、今のバス路線・便数であってもより利便性を実感していただけるような環境づくりを進める必要がある。

地域公共交通計画の作成、洛西“SAIKO”プロジェクトによる洛西のまちづくり、地域公共交通会議の開催など、バス交通を考える機会は増えている。バス事業者4社局のほか、鉄道事業者が協力して、便利な公共交通の実現に向けて取り組んでまいりたい。

持続可能な公共交通の実現のためには、やはり、皆様に積極的に御利用いただくことが重要。洛西地域においては、ポケット時刻表の作成や、お出掛けキャンペーンの実施など、地域主体の様々な取組を進めていただいている。このような取組により、引き続き、お力添えいただければと思う。

○ 井上委員（龍谷大学）

これから洛西のまちが活性化するうえで重要なのは、何に焦点を置くかである。現在は、高齢者の人口が多いため、高齢者にとって住みよいまちづくりを考えがちだが、今後は、どんなまちになれば若い世代にも住んでもらえるかも

考えていくべき。ニュータウンができた昭和 50 年代の明るい雰囲気や若者に伝えることができればよいのでは。公共交通は目的があって利用するもの。まちづくりの観点からも皆様と共に考えていきたい。

○ 宇野会長（京都大学）

今、お住まいの方にとっての利便性を高めることが最優先である一方で、今後、どのような方に住んでもらいたいか、その方にとってどのような公共交通が必要かを議論できればよい。洛西“SAIKO”プロジェクトでも、まちの在り方から公共交通を考えることが掲げられているが、皆様の知恵を借りながら議論を進めてまいりたい。

(5) 公共交通に関するヒアリング調査結果

○ 事務局

（資料5に基づき、説明）

○ 榎田委員（京都市西京区役所洛西支所）

2点、申し上げる。

1点目、バス自体は便利だが、そのことが十分に伝わっていないといった意見があったが、洛西“SAIKO”プロジェクトでも、“バスに乗ってSAIKO（さあ、行こう）”キャンペーンの実施を掲げており、バスの利便性を周知する取組を進めてまいりたいと考えている。

2点目、地域と鉄道駅とを結ぶ路線は便利である一方で、地域内の移動が不便であるため、地域内循環バスが必要といった声もあった。とは言え、地域内循環バスを運行しても利用者がどれだけいるかという課題もある。洛西“SAIKO”プロジェクトでは地域の拠点から鉄道駅へのアクセス向上を掲げており、例えば、乗継ぎが前提となるが、鉄道駅と洛西バスターミナルとを最短ルートで運行し、地域内循環バスに乗り継ぐというようなことを検討することもできるのではないかと。

○ 小石委員（西京区自治連合会）

洛西地域内でも地域間格差がある。既存のバス路線だけでは不便。やはり地域内循環バスが必要。特に大原野地域では、バス運賃も高く、早くに最終バスが終わってしまう、こんな地域がまだ残っていることは問題。誰もが利用しやすい便利な公共交通を、いかに上手に実現するかを考える必要がある。乗継ぎを前提にしても、地域内循環バスがあれば良いと感じる。

○ 平山委員（ヤサカバス）

10月1日から民営バス敬老乗車証が利用いただけるようになる。是非、積極的に御利用いただきたい。

将来的には、都市計画の見直し等により、洛西ニュータウン内に人を呼び込む政策を考えていただいている。我々交通事業者は、連携して、需要に見合っ

たダイヤ、路線を提案していく責任がある。警察や道路管理者におかれても、バスを安全に円滑に運行するための環境整備に御尽力いただきたい。

○ **田中様（京都府警西京警察署）**

道路管理者とも連携しながら環境整備に努めてまいりたい。具体的な場所を御教示いただければ、現場調査を実施のうえ、対応を検討してまいりたい。

○ **渡邊委員（京都市西京土木みどり事務所）**

安心安全な運行が最も大事なこと。お気付きの点があれば、随時御連絡いただければと思う。

3 その他

○ **矢内委員（京都市歩くまち京都推進室）**

本日、様々な観点から御意見いただき、感謝申し上げます。

井上委員の講演では、公共交通を「自分ごと」として考える必要性について言及があったが、京都市が平成 22 年に策定した「歩くまち京都」総合交通戦略の理念とも合致すると感じた。今回作成した地域公共交通計画素案の市民意見募集リーフレットの皆さんに知っていただきたいことにも「「他人ごと」から「自分ごと」「みんなごと」へ。使って守る公共交通へ。」と記載している。また、みんなで取り組む10のアクションの1つ目にも「みんなで守る地域の足！」として、モビリティ・マネジメントの推進により、積極的な利用促進に向けた取組を進めることを掲げている。

洛西“SAIKO”プロジェクトでは、住宅、公園、教育など、様々な観点から洛西地域の活性化に向けて取り組んでいくこととしており、交通もその大きな要素として議論を重ねてまいりたい。

また、木原委員から共有いただいた担い手不足の問題については、我々も大きな課題の一つと認識しており、しっかりと取り組んでまいりたい。

地域の皆様からも、地域内循環バスなど様々な御意見をいただいた。今年10月には、民営バス敬老乗車証が洛西地域に適用拡大され、バスの色を気にせず利用できる環境に向けて一つ進むことになる。こういった取組を広めてまいりたい。

いずれにしても、引き続き、皆様の意見をお聞きしながら、本市が調整役となり、バス事業者4社局と連携して取組を進めてまいりたい。

○ **井上委員（龍谷大学）**

学区ごとのヒアリング結果を見ると、公共交通を頻繁に利用している方とそうでない方の意見が確認できる。要望は、普段利用しない方から多く寄せられる傾向にあるが、そういった方の意見を採用すると、頻繁に利用している方にとっては逆に不便になってしまう。公共交通の在り方を考える際は、日常的に利用されている方に、満足している点、不満に思う点を聞くと参考になるのでは。

まちづくりの観点から言うと、こんなお店があったらよいといったビジネスチャンスになるようなアイデアを出していただければよいと思う。

意見を募集するときは、例えばWeb会議で募集するなど、若者を集める工夫が必要。対面では高齢者から、Web会議では若者からというように、いろんな世代の方からの意見を聞けるとよい。

また、安全な走行環境は何よりも大切。洛西地域の方は、公共交通の利用マナーがよいと感じる。違法駐車も少ない。こういった意識が広がると、走行環境の整備が実現しやすいと思う。

○ 宇野会長（京都大学）

洛西地域内からの移動だけでなく、地域外からの移動というように、双方向の人の動きができれば、持続可能な公共交通を実現できるのではと考える。洛西“SAIKO”プロジェクトでは、地域外から洛西地域への流れが実現する取組が示されていると思う。

また、新たに入って来られる方に、モビリティ・マネジメントの取組と言うと押し付けられる印象もあるため、洛西地域での便利に暮らす方法といったチュートリアル、イントロダクションの一つとして、モビリティ・マネジメントの要素を入れて、公共交通を使うことが当たり前の地域だと知ってもらえればよい。

引き続き、皆様からの御意見をいただきながら、洛西地域の公共交通について考えてまいりたい。

4 閉会

○ 事務局

今年度中にあと1回の会議を考えている。

具体的な日程は、改めてお知らせする。

第3回京都市洛西地域公共交通会議 出席者名簿

(敬称略)

区分	所属・職名	氏名	備考
学識経験者	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 教授	宇野 伸宏	会長
	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻 教授	井上 学	
地方運輸局長が 指名する者	近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官	木原 健太	
交通事業者	京阪京都交通株式会社取締役管理部長	栗山 準一	
	阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部 部長 (地域公共交通担当) 兼 新モビリティ推進部 部長	野津 俊明	
	株式会社ヤサカバス上烏羽営業センター 所長	平山 敬浩	
	京都市交通局自動車部担当部長	児玉 宜治	
	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部京滋支社 地域共生室 室長代理	吉田 敦亘	
	阪急電鉄株式会社都市交通事業本部沿線まちづくり 推進部 部長	阿瀬 弘治	
交通事業者が 組織する団体	一般社団法人京都府バス協会 専務理事	竹内 哲也	
	一般社団法人京都府タクシー協会 専務理事	足立 高広	
住民	西京区自治連合会 会長	小石 玖三主	
	西京区自治連合会 副会長 新林学区自治連合会 会長	片岡 純治	
	福西自治連合会 会長	藤本 廣志	
	西京区地域女性連合会 境谷会長	能登 富美代	代理出席 安田 桂子
労働組合	京阪京バス労働組合 執行委員長	俣野 健二	
道路管理者	国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所事業対策 官	今城 由貴	代理出席 石田 拓也
	京都市建設局土木管理部西京土木みどり事務所長	渡邊 剛	
交通管理者	京都府西京警察署交通課長	加藤 浩一	代理出席 田中 良昭
市長が指名 する者	京都市都市計画局歩くまち京都推進室 事業推進担当部長	矢内 克志	
	京都市西京区役所地域力推進室長	橋本 悟	
	京都市西京区役所洛西支所地域力推進室長	榎田 雅也	